

JVC・ケンウッドグループ 決算説明会

2009年(平成21年)3月期

JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社

2008年10月28日

日本ビクター中間決算概要

執行役員 兼 財務戦略部長 武田 雅亮

ケンウッド中間決算概要

取締役副社長 兼 CFO 尾高 宏

JVC・ケンウッドグループの 2009年3月期業績予想と下期重点施策

代表取締役会長 兼 CEO 河原 春郎

日本ビクター中間決算概要

2009年(平成21年)3月期

JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社

執行役員 兼 財務戦略部長

武田 雅亮

2008年10月28日

1

上半期営業利益は前年の赤字から黒字転換

- 民生・・・構造改革効果・課題事業の赤字幅削減で体質改善
- 産業・・・市況厳しく減収となるが営業利益は前年を確保
- エンタテインメント・・・減収ながら欠損減、第2四半期は黒字

2

構造改革は着実に進捗

- 記録メディア事業は分社化から持分譲渡へ
- ディスプレイ事業は予定通り拠点の集約・国内店頭在庫削減を促進
- デバイス事業はODDモータ事業を最終整理

2008年度上半期業績概要

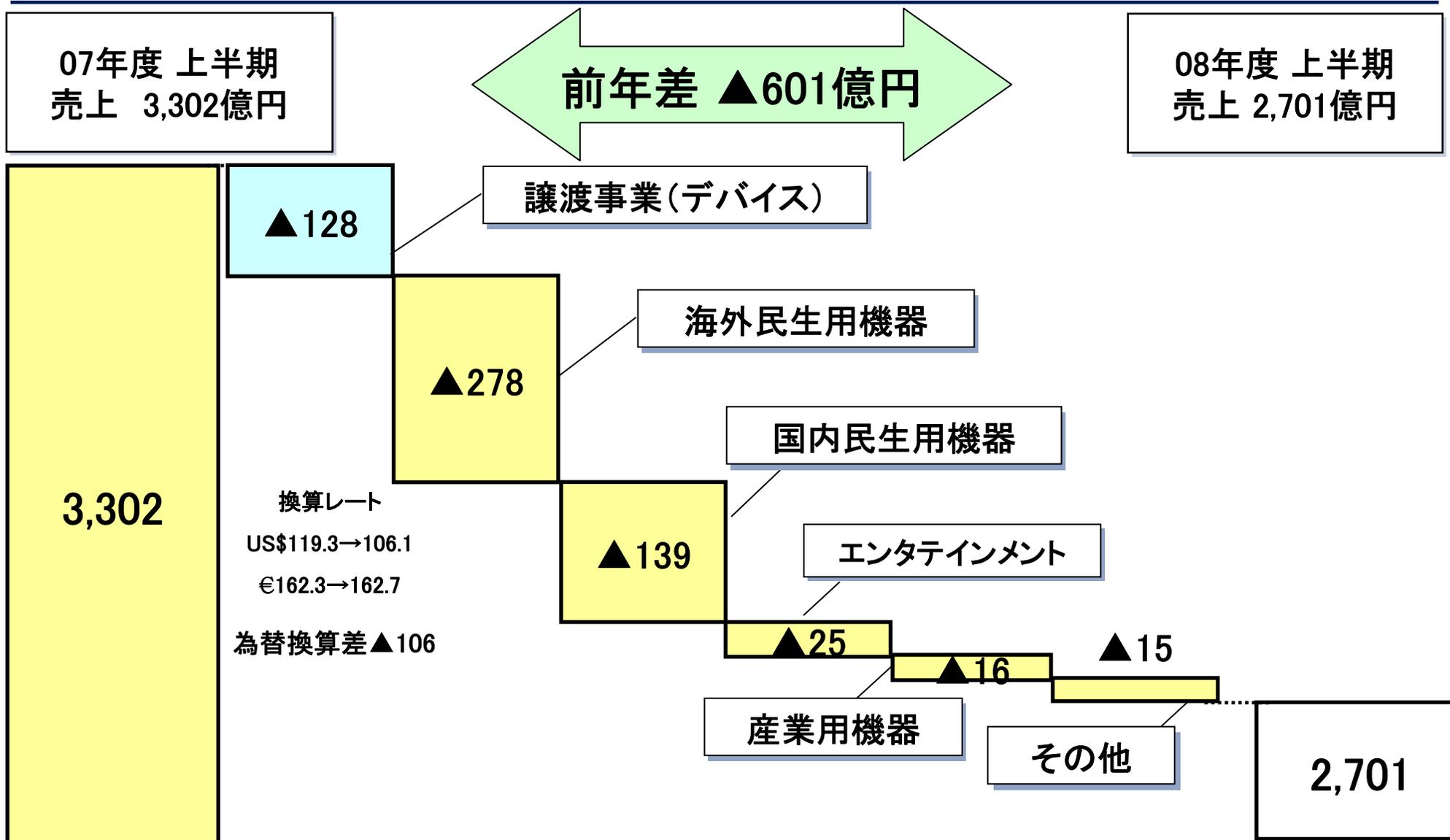
上半期 (連結)	(億円)	実績	9/25公表	前年実績	公表差	前年比/差
	売上高	2,701	2,750	3,302	▲ 49	82%
	営業利益	0.5% 13	0.4% 11	▲ 1.6% ▲ 54	0.1% 2	67
	経常利益	▲ 1.0% ▲ 27	▲ 0.8% ▲ 22	▲ 3.2% ▲ 105	▲ 0.2% ▲ 5	78
	純利益	▲ 3.0% ▲ 81	▲ 2.9% ▲ 81	▲ 12.7% ▲ 421	▲ 0.1% 0	340

2008年度上半期特損益 実績 (億円)

第2四半期 (連結)	(億円)	実績	9/25公表	前年実績	公表差	前年比/差
	売上高	1,374	1,423	1,711	▲ 49	80%
	営業利益	1.9% 26	1.7% 24	0.5% 9	0.2% 2	17
	経常利益	▲ 0.2% ▲ 3	0.1% 2	▲ 1.6% ▲ 28	▲ 0.4% ▲ 5	25
	純利益	▲ 0.9% ▲ 12	▲ 0.8% ▲ 12	▲ 17.0% ▲ 291	▲ 0.0% 0	279

固定資産除・売却損益	48
棚卸資産評価減(低価法)	▲ 25
国内ディスプレイ縮小	▲ 27
記録メディア	▲ 14
ODDモータ	▲ 8
その他	▲ 13
構造改革費用・その他特損益	▲ 61
特別損益計	▲ 38

売上(前年差)



営業利益(前年差)

07年度上半期
営業利益 ▲54億円

前年差 +67億円

08年度上半期
営業利益 13億円

事業構造
改革効果
+57

為替
▲3

販売減
▲117

当期実績

13

前期実績
▲54

雇用構造
改革効果
+69

固定費改善
+58

売価ダウン
▲157

商品ミックス
原価改善
+160

事業セグメント～民生セグメント

2007/1Q 2007/2Q 2007/3Q 2007/4Q 2008/1Q 2008/2Q

(億円)

売上

1,188

1,216

1,343

948

1,001

985

営業利益

34

17

5

22

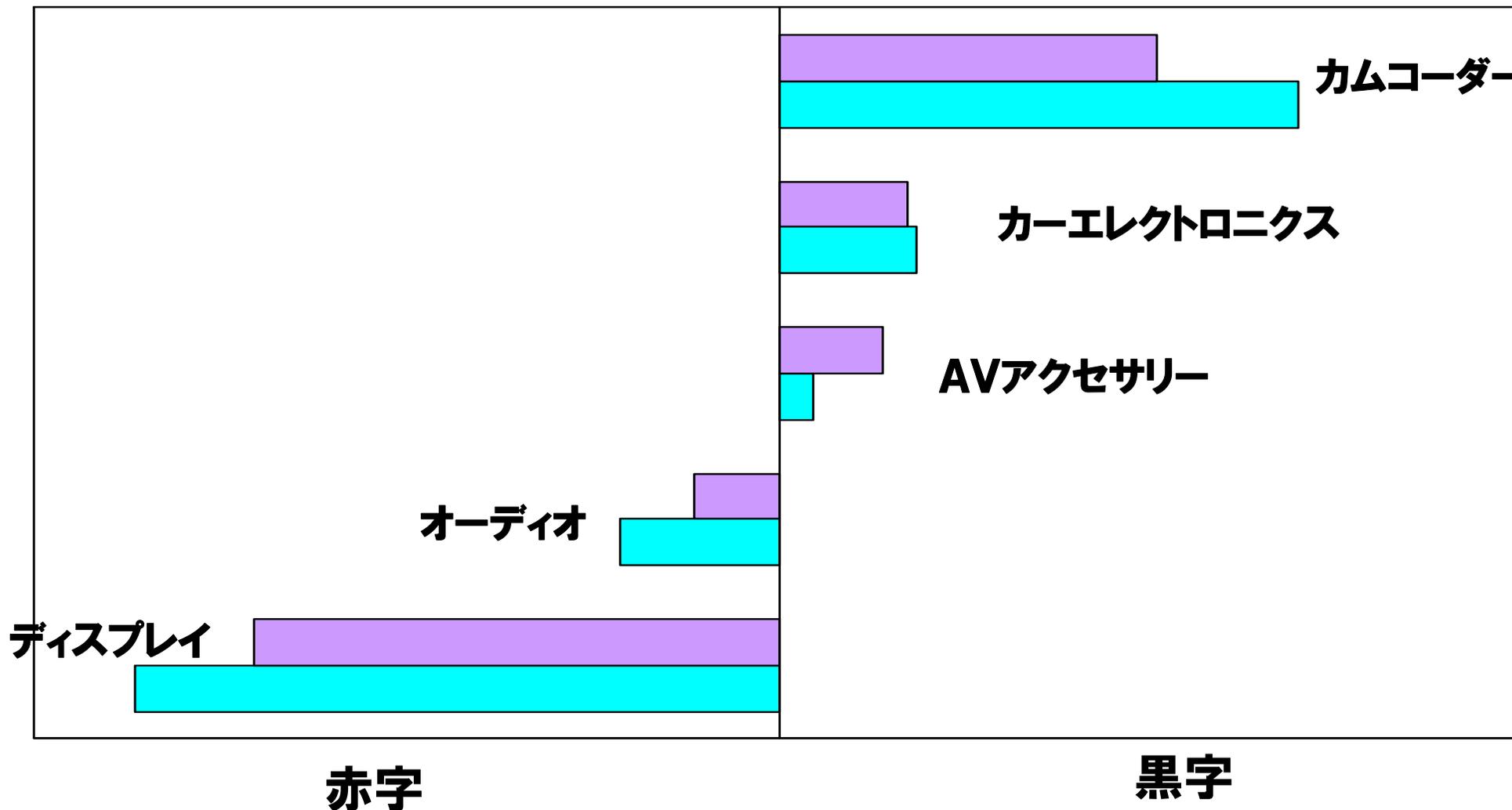
▲ 10

1

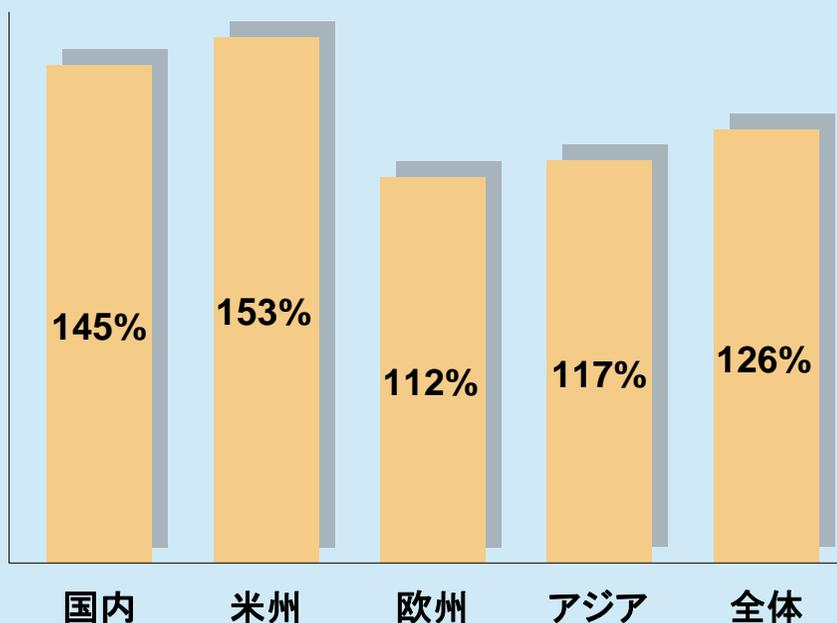
上半期

	実績	前年	前年比/差
売上	1,986	2,404	83%
営業利益	27	▲ 10	36

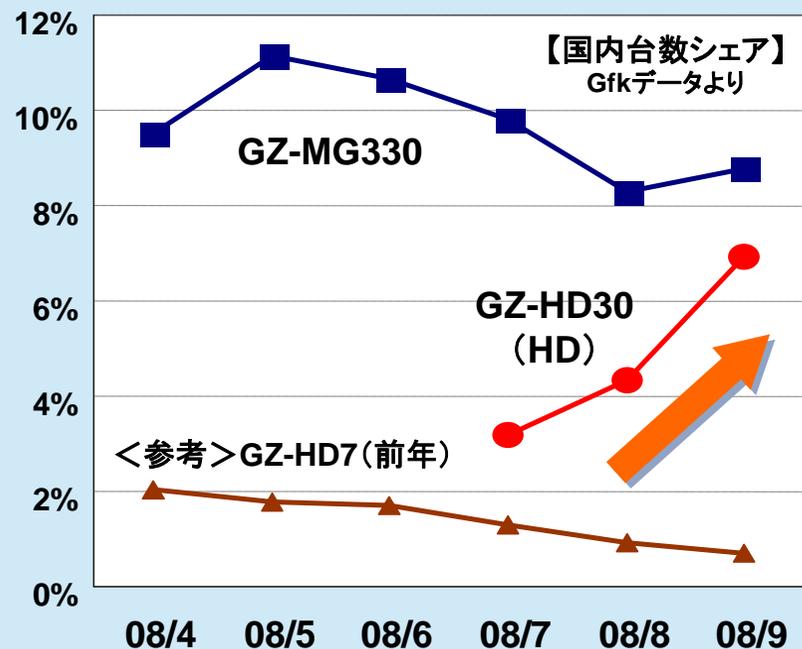
■ 2007/上 ■ 2008/上



HDDカムコーダーの台数前年比



カムコーダー主力モデルシェア状況



- 1) 主力のHDDモデルEverioはグローバルで依然として高い伸び
- 2) 国内市場ではHDモデル新商品HD30の垂直立上に成功

- 3) 特にMG330は、世界の主要国でトップシェアグループを堅持
- 4) 一方で単価ダウンが進み、収益は厳しくなった。

上期は改革施策の確実な実行により、前年同期比20.3億円の利益改善となる

改革効果は着実に刈り取られている
対年間計画進捗率: 39%

上期営業利益増減分析

2007/上実績

2008/上実績

改革施策の実行効果で
20.3億円の改善

※事業体と販売部門を繋いだ
連結ベース営業利益



経営改革効果進捗状況

6,000
(百万)

100%

3,000

50%

進捗率

25%

0

0%

2008/Q1実績

2008/上実績

2008目標

※事業体と販売部門を繋いだ
連結ベース営業利益

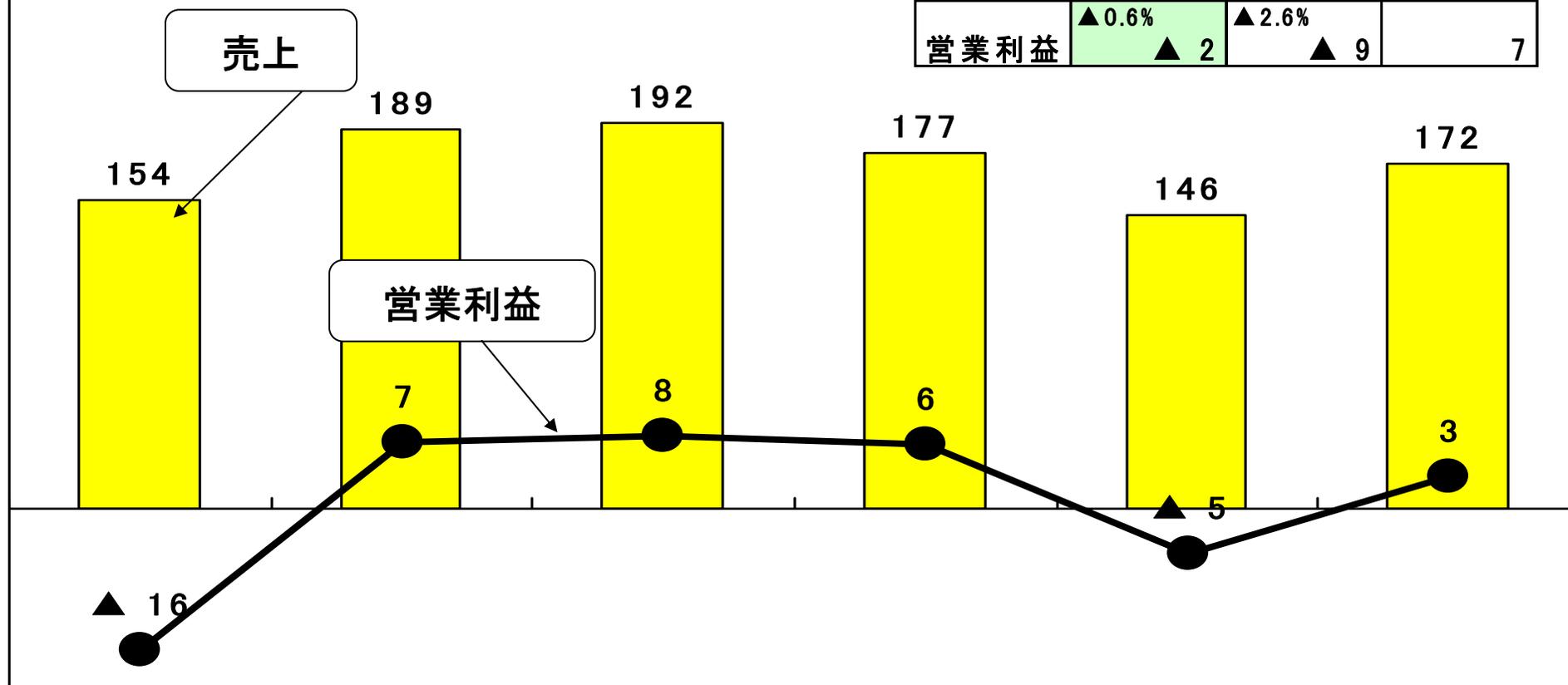
事業セグメント～エンタテインメント

2007/1Q 2007/2Q 2007/3Q 2007/4Q 2008/1Q 2008/2Q

(億円)

上半期

	実績	前年	前年比/差
売上	318	342	93%
営業利益	▲0.6% ▲ 2	▲2.6% ▲ 9	7



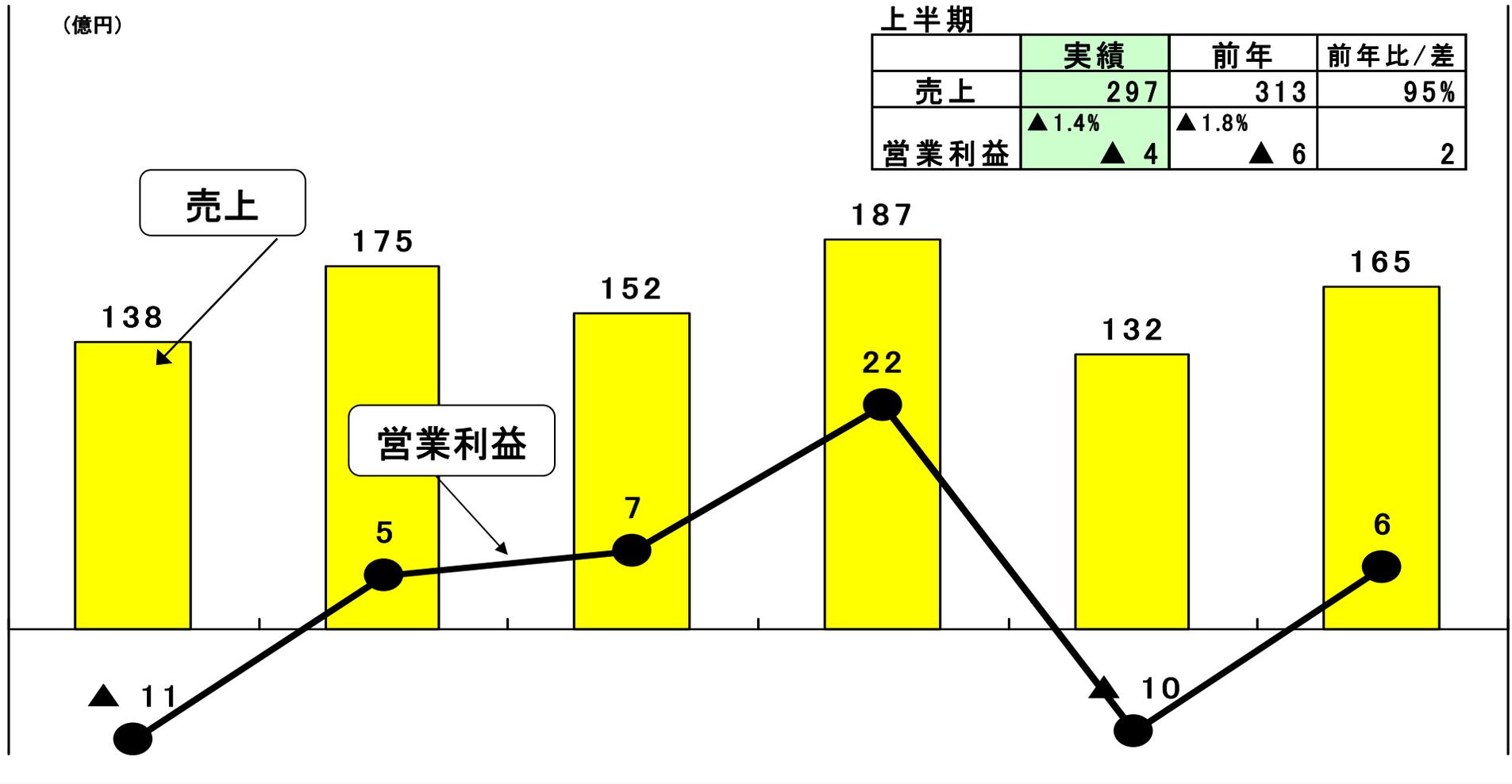
事業セグメント～産業

2007/1Q 2007/2Q 2007/3Q 2007/4Q 2008/1Q 2008/2Q

(億円)

上半期

	実績	前年	前年比/差
売上	297	313	95%
営業利益	▲ 1.4% ▲ 4	▲ 1.8% ▲ 6	2



(億円)	'07.3 (年間)	'07.9	'08.3 (年間)	'08.9	前年差
総資産	4,207	4,054	3,150	3,019	▲ 1,035
純資産	1,338	1,289	1,141	1,063	▲ 226
営業利益	▲ 57	▲ 54	33	13	67
総資産営業利益率(年換算)	▲ 1.3%	▲ 2.6%	0.9%	0.8%	3.5%

棚卸資産	(50日)	(50日)	(43日)	(48日)	(▲2日)
	1,038	944	785	723	▲ 221

社債	300	430	425	420	▲ 10
銀行借入金	905	730	271	322	▲ 408
有利子負債※	1,205	1,160	696	743	▲ 417
ネット資金	▲ 505	▲ 327	▲ 262	▲ 419	▲ 93

※リース負債は含まず

フリーキャッシュフロー	125	▲ 157	▲ 53	▲ 155	2
-------------	-----	-------	------	-------	---

設備投資	133	32	70	44	12
減価償却	168	84	163	57	▲ 27
研究開発費	362	173	330	154	▲ 19

※金型は投資・償却に含まず

ケンウッド中間決算概要

2009年(平成21年)3月期

JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社

取締役副社長 兼 CFO

尾高 宏

2008年10月28日

中間決算概要

【資料中の略語】

CE:カーエレクトロニクス COM:コミュニケーションズ HE:ホームエレクトロニクス

【前年同期比】

- * 円高の影響により減収減益
- * 為替の影響を除いたベースでは微減収・営業増益

【期初計画比】

- * 売上高は、CE事業の好調により期初計画を上回った。
- * 損益は、当第2四半期後半の市況悪化に対する収益改善策が営業利益には結びつかず、海外子会社の収益の一部が営業外収益に計上されたことなどもあり、営業利益は従来予想を下回ったが、経常利益および中間純利益は従来予想を上回った。

連結PL

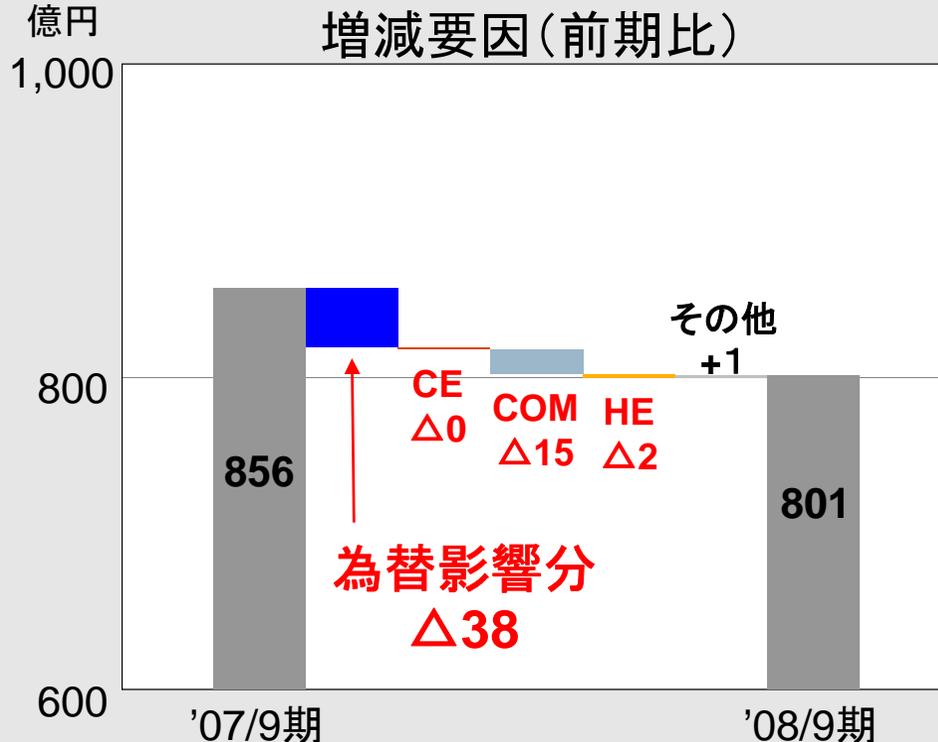
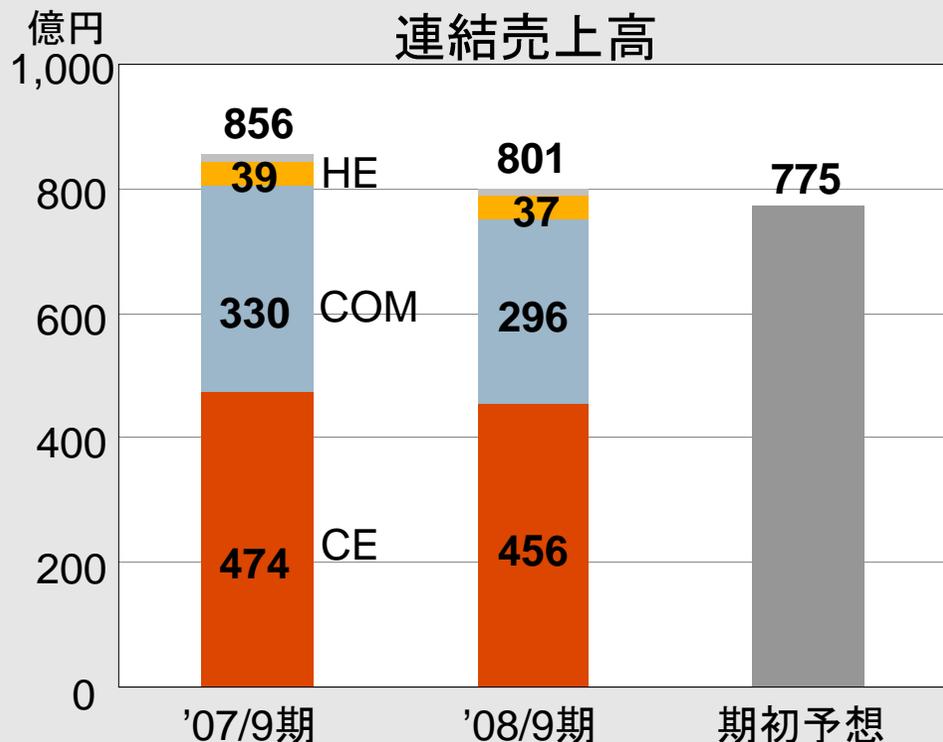
(億円)

	'07/9期実績		期初予想		'08/9期実績		前期比		期初予想比	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	率	金額	率
売上高	856		775		801		△55	△6.5%	+26	3.3%
営業利益	26	3.1%	24	3.1%	15	1.9%	△11	△40.8%	△9	△35.5%
経常利益	16	1.8%	10	1.3%	11	1.4%	△5	△29.9%	+1	10.8%
中間純利益	12	1.4%	0	0.0%	1	0.1%	△11	△93.8%	+1	—

前期比6.5%減収の約801億円

* CE事業が堅調に推移したが、COM事業の携帯電話機販売分野の低調と円高の影響により、前期比△55億円(6.5%減収)

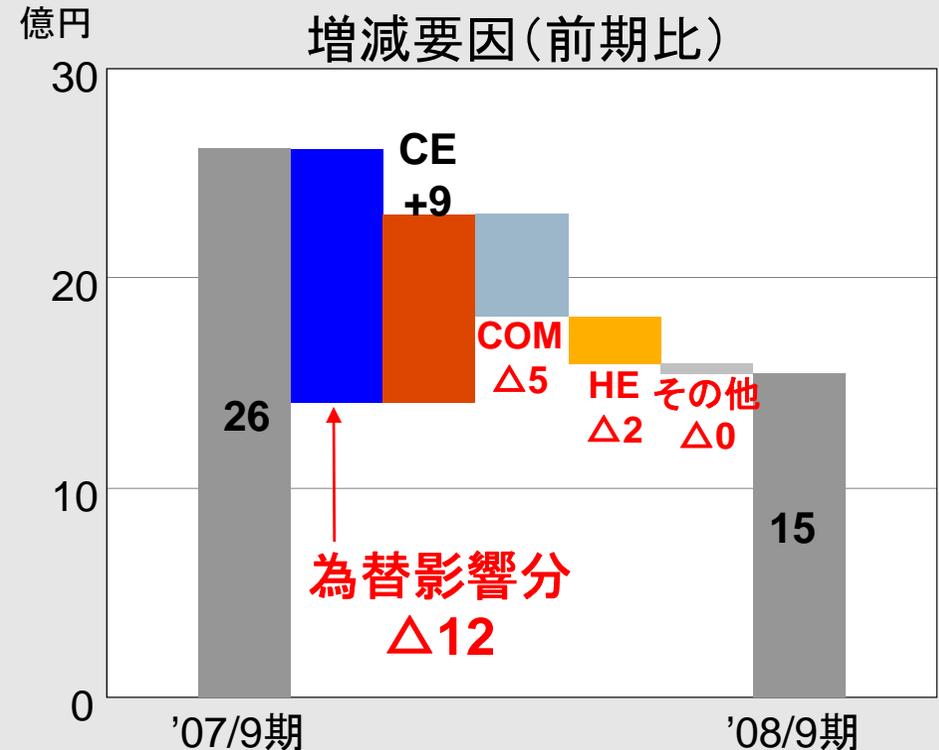
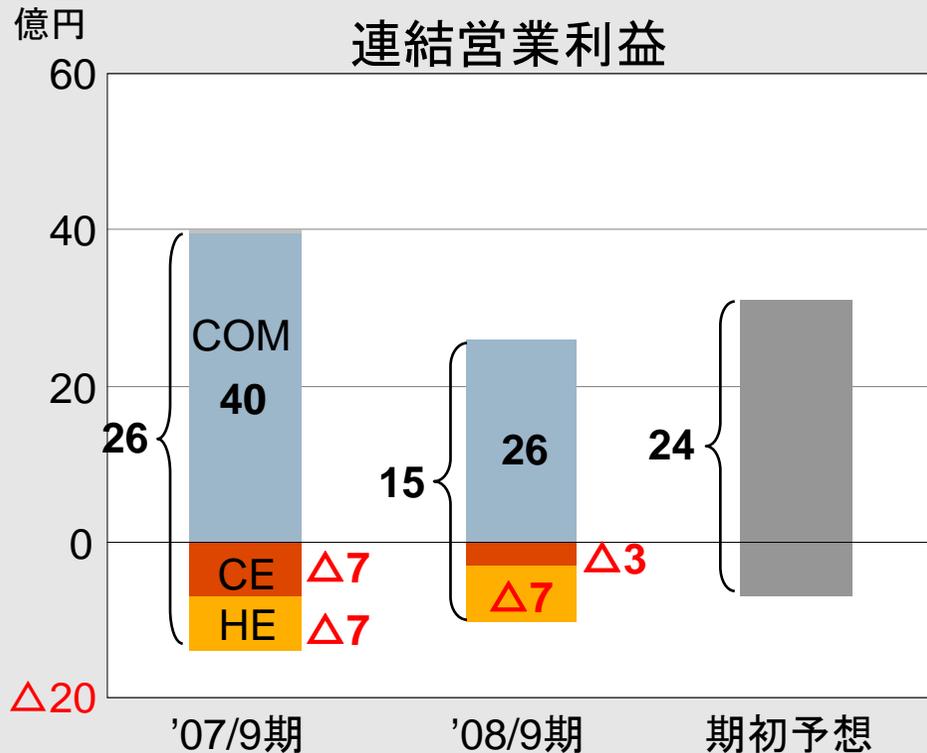
* 為替の影響を除いたベースでは、携帯電話機販売分野の売上減少が影響し、前期比2.1%減収



前期比40.8%減益の約15億円

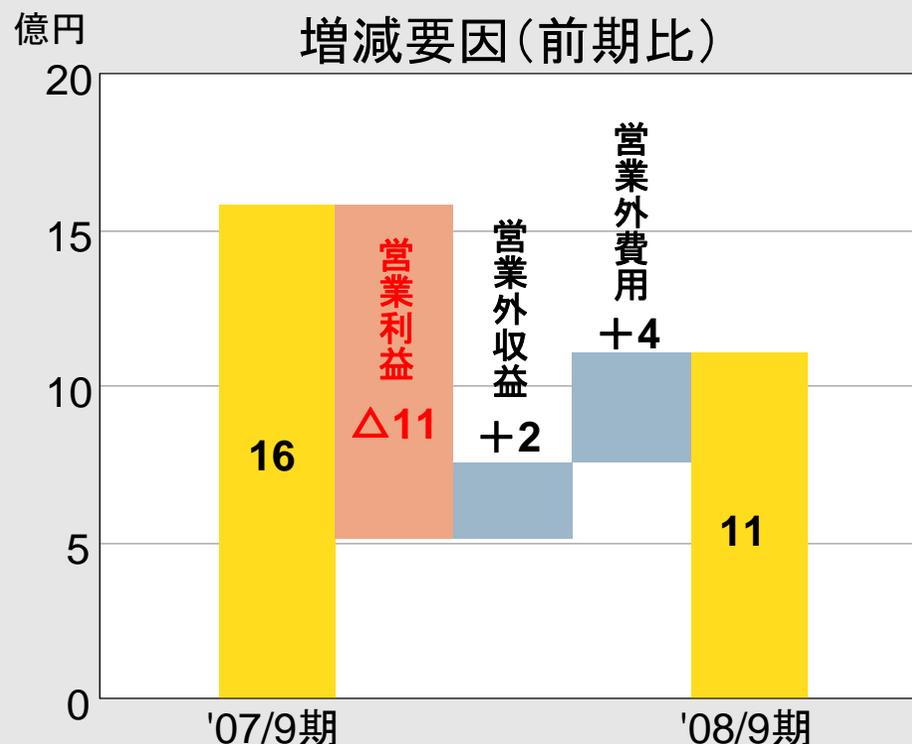
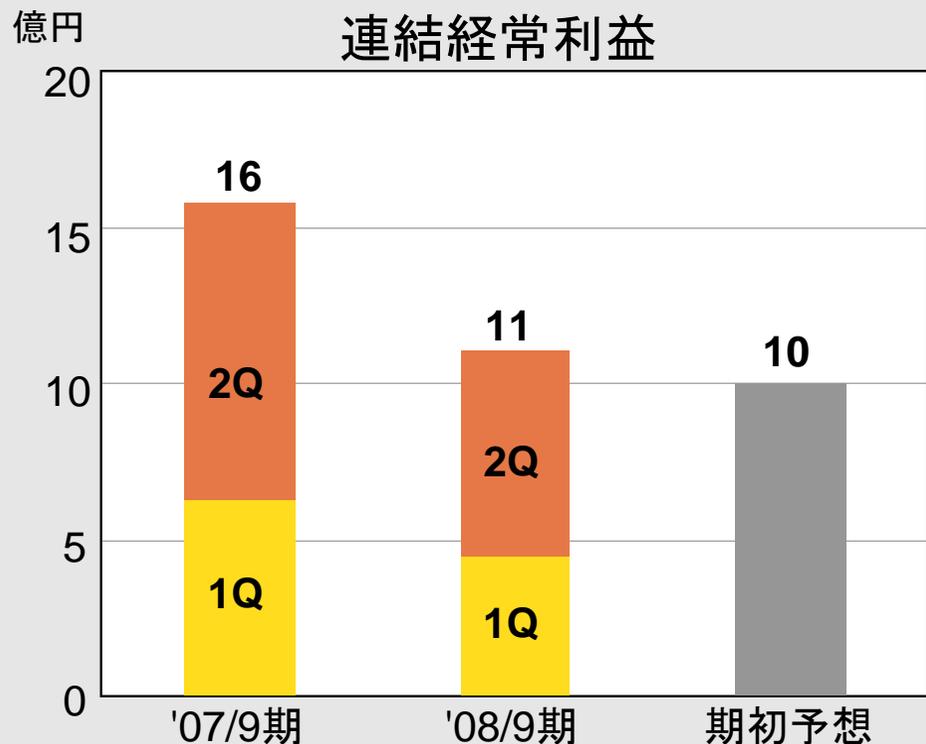
* 円高の影響とたな卸資産廃棄損(約4億円)が減益要因となったものの、CE事業の損益が改善し、前期比△11億円減(40.8%減益)にとどまった。

* 為替の影響を除いたベースでは、CE事業が黒字転換し、前期比5.3%増益



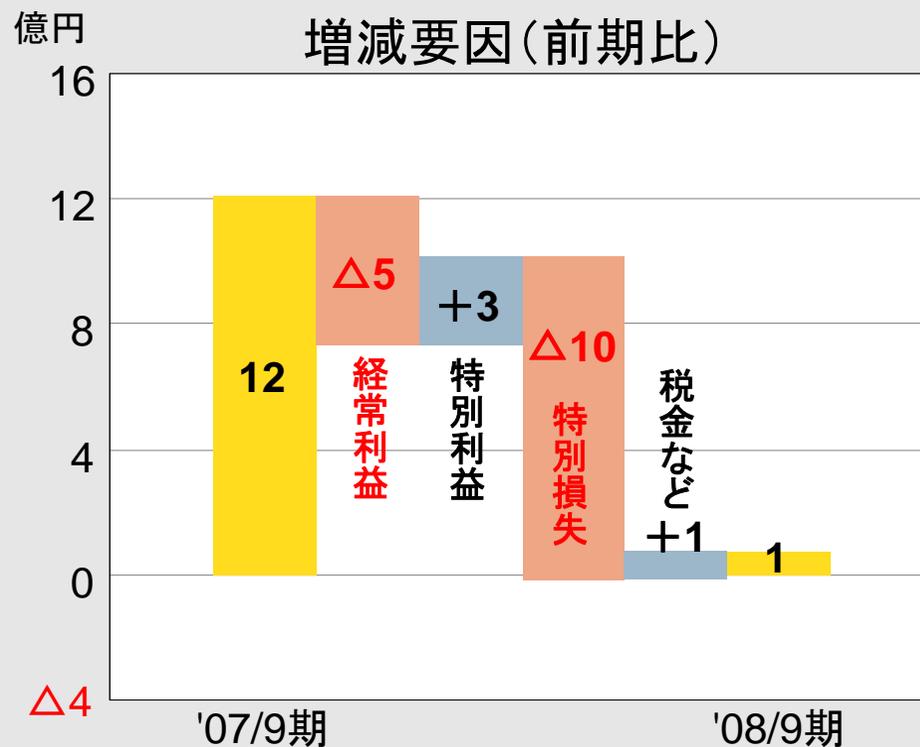
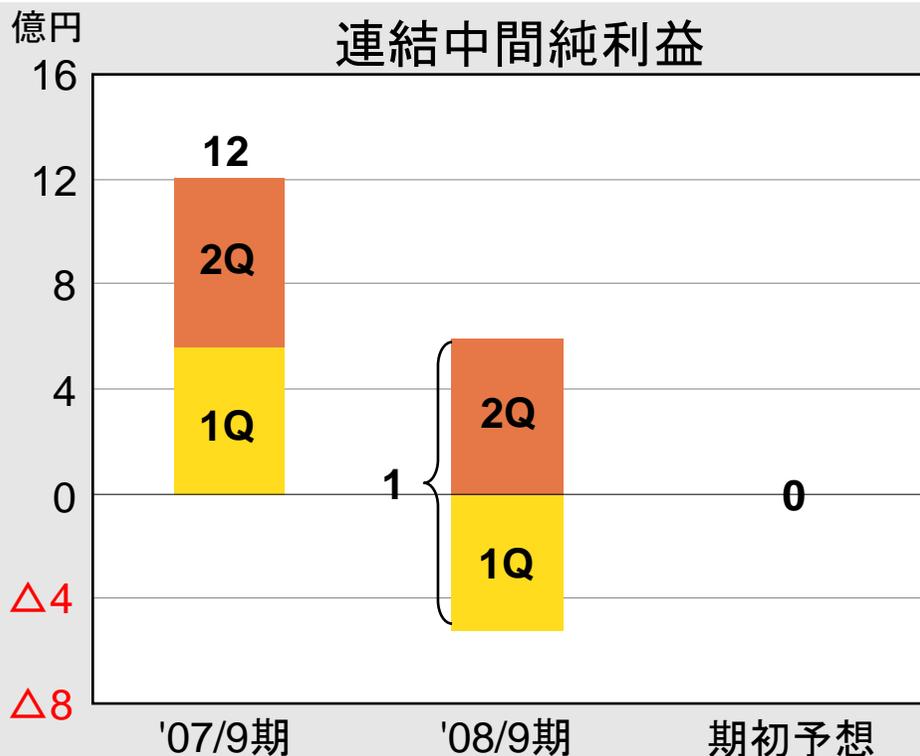
前期比29.9%減益の約11億円

* 海外子会社の一部収益など営業外収益の増加と営業外費用の減少が、営業利益減少の影響を一部補い、前期比△5億円減(29.9%減益)にとどまった。



前期比93.8%減益の約1億円

* 経常利益の減少に加え、たな卸資産評価損や特別退職金を特別損失に計上したものの、投資有価証券売却益の計上により、前期比△11億円減(93.8%減益)にとどまった。



【バランスシート】

- * 売掛金や棚卸資産の減少、投資有価証券の時価減少などにより、総資産は減少
- * 利益剰余金の減少、その他有価証券評価差額金の減少などにより、純資産は減少
- * 短期借入金の一部返済により有利子負債、ネットデットは減少

主な関連指標の推移

	'07/9期末	'08/3期末	'08/9期末	'08/3期末比
総資産	1,347	1,261	1,154	△ 107
純資産	346	299	254	△ 46
利益剰余金	196	215	208	△ 8
自己資本比率(%)	25.7	23.7	22.0	△ 1.8
有利子負債	538	514	488	△ 26
ネットデット	356	364	329	△ 35

セグメント情報

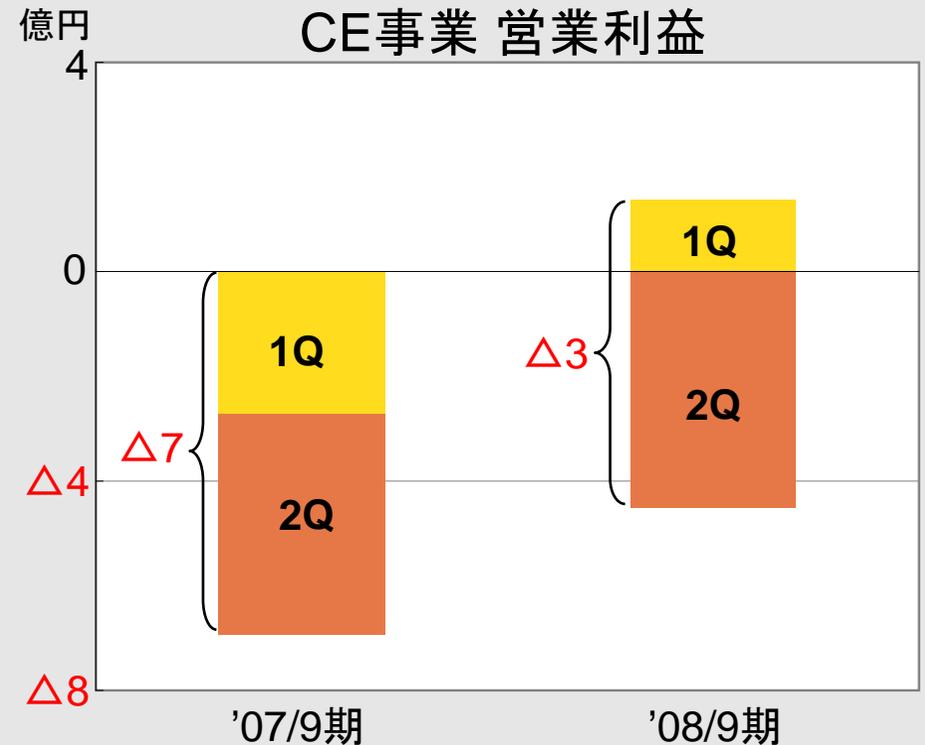
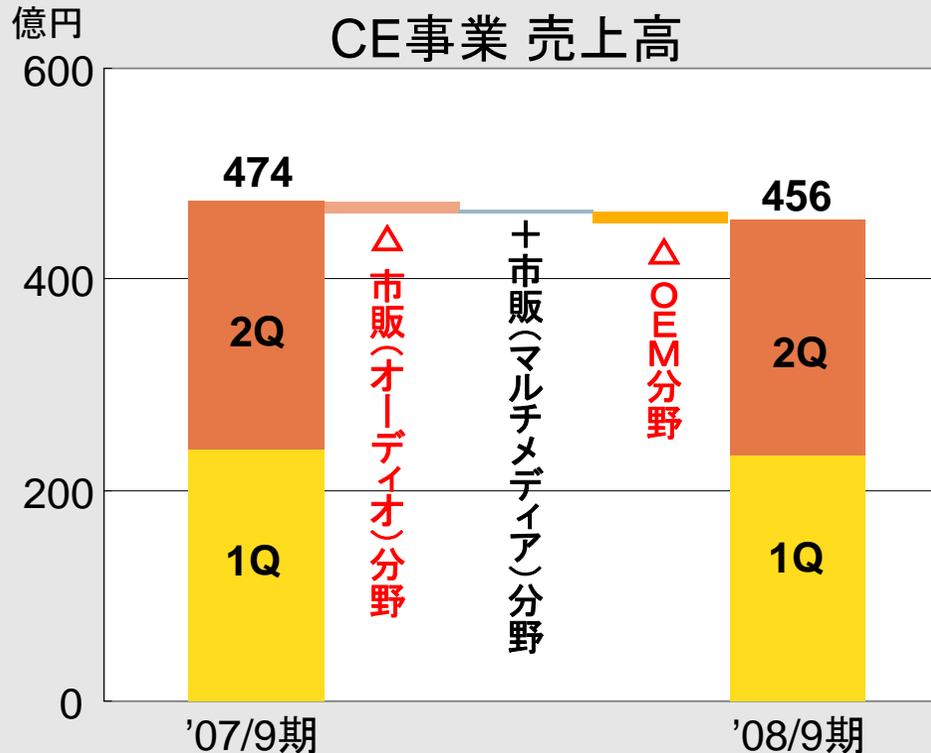
2009年3月期中間決算概要 **CE事業**

【売上高】 前期比3.8%減収の約456億円

- * 市販分野は海外ナビ・オーディオの好調で円高の影響を吸収して前期並み
- * OEM分野の事業構造改革の影響により、事業全体では減収

【営業利益】 前期比損失半減の△約3億円

- * 市販分野の収益が円高の影響を吸収して前期並み
- * OEM分野の損益がコスト構造改革によって改善し、事業全体では損失半減



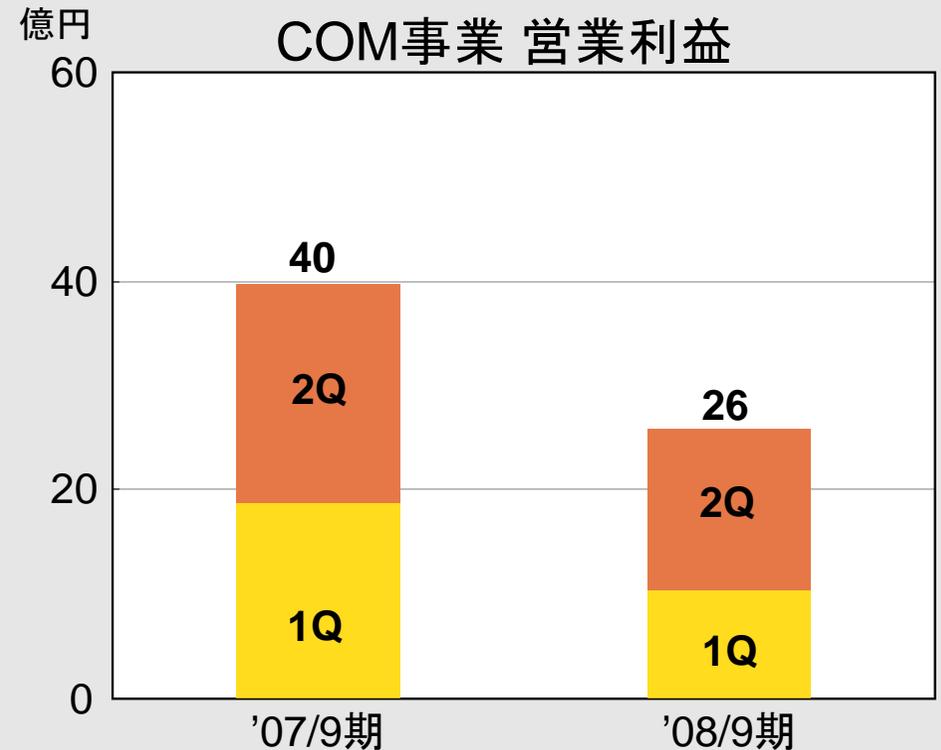
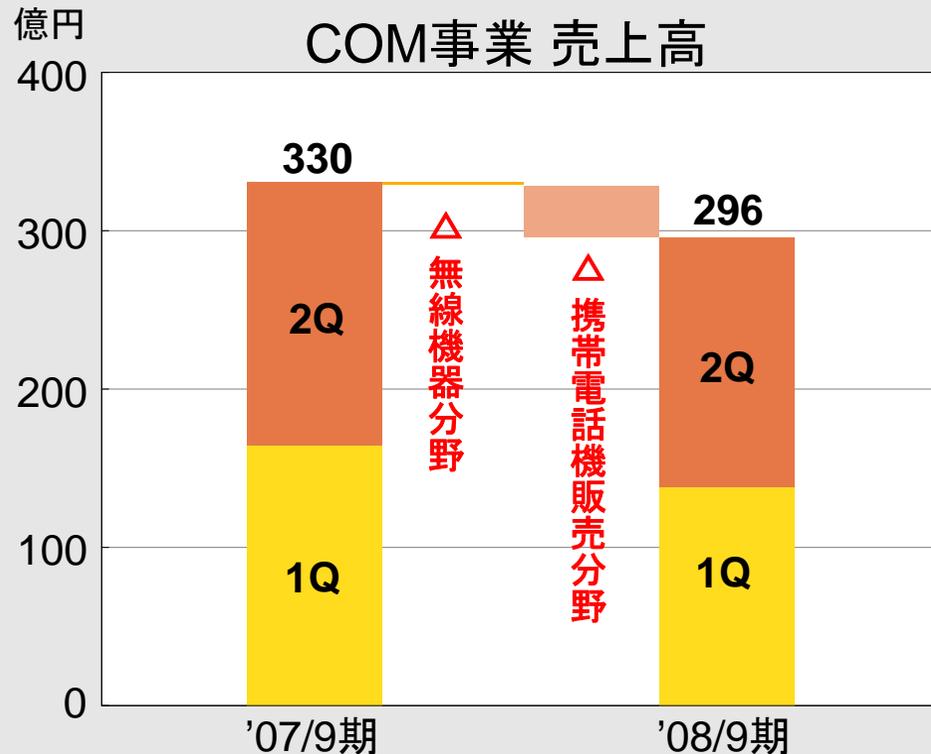
2009年3月期中間決算概要 COM事業

【売上高】前期比10.3%減収の約296億円

- * 主力の無線機器分野の売上は円高の影響を吸収して前期並み
- * 携帯電話機販売分野の売上減少の影響により、事業全体では減収

【営業利益】前期比34.9%減益の約26億円

- * 円高の影響や携帯電話機販売の売上減少の影響、戦略投資の影響により減益



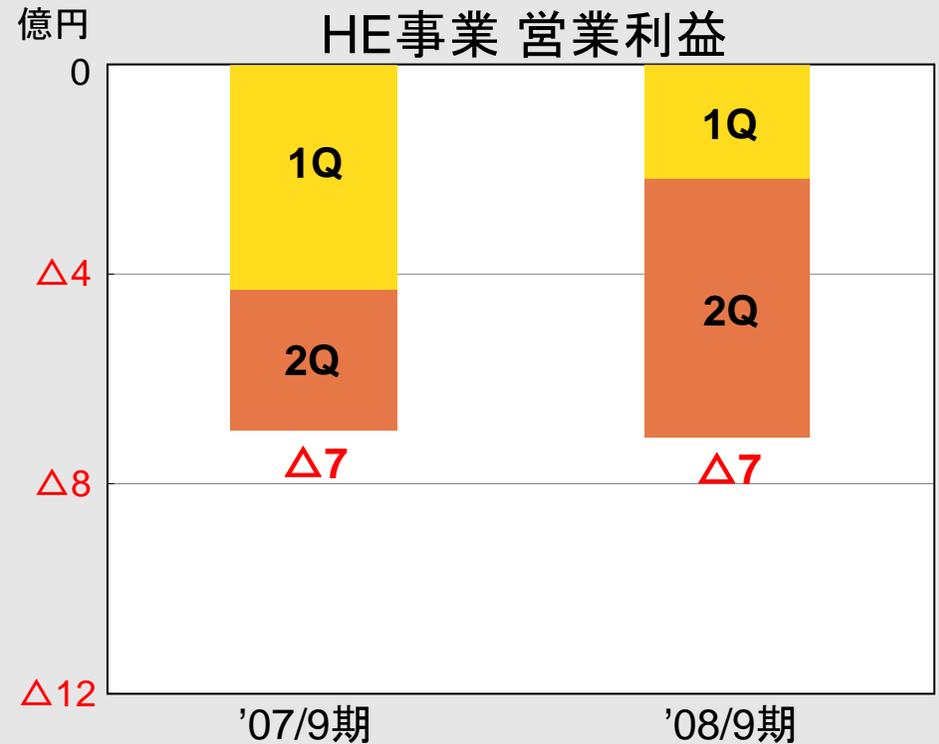
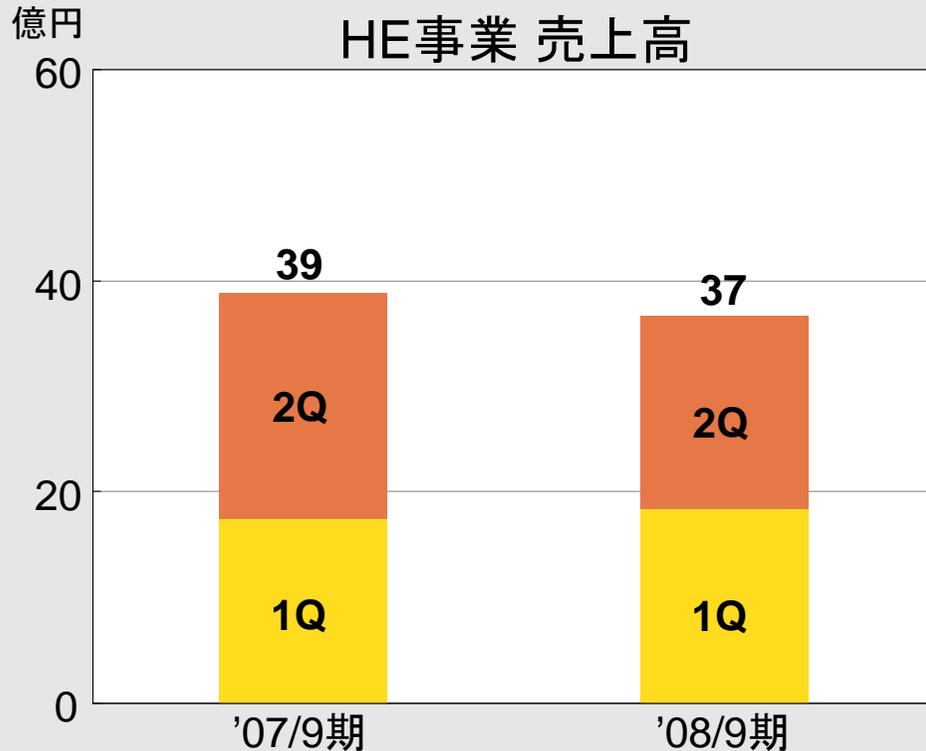
2009年3月期中間決算概要 HE事業

【売上高】 前期比5.4%減収の約37億円

* 市場縮小の中、ラインアップを拡充した高付加価値製品が堅調に推移し、前期並み

【営業利益】 前期並みの約△7億円

* 高付加価値型事業構造への転換の成果が顕在化しただが、市場環境の悪化により前期並み



JVC・ケンウッドグループの 2009年3月期業績予想と下期重点施策

2009年(平成21年)3月期

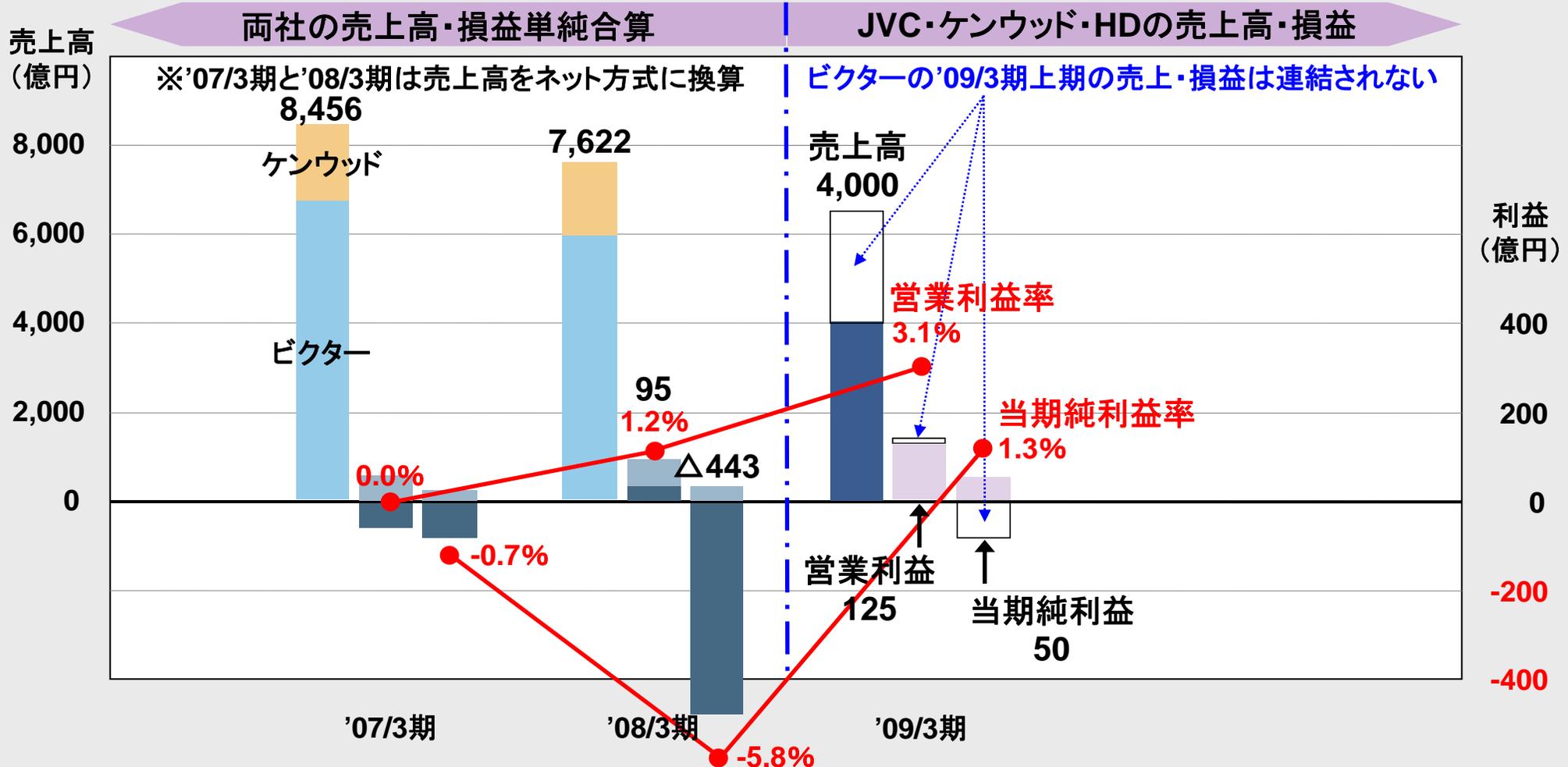
JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社

代表取締役会長 兼 CEO

河原 春郎

2008年10月28日

JVC・ケンウッド・HDの'09/3期業績は、'09/3期上期までの両社単純合算と非連続



- * 経営環境の悪化をふまえて下期重点施策を設定
- * 収益構造改革会議を発足し、経営環境の悪化に対処し統合効果の早期実現をはかるための新たな取り組みを開始

(億円)

売上高	営業利益 (営業利益率)	経常利益 (経常利益率)	当期純利益 (当期純利益率)
4,000	125 (3.1%)	75 (1.9%)	50 (1.3%)

- * 2008年10月1日に発表した業績予想と同じです。
- * ①ビクターにおける売上高の算定方法の変更、②「負ののれん」の発生にともなう当期分の償却額、③連結納税制度の適用にともなう納税予想額の減少を織り込んでおります。
- * 当下期の業績予想の前提となる想定為替レートは、米ドル:100円、ユーロ:130円です。

当下期の重点施策

カーエレクトロニクス事業

- * 2009年新製品群の一部先行投入
- * 両ブランドの強みを活かした事業展開とJ&Kテクノロジーによるコスト競争力強化
- * 米ガーミン社との協業によるAV一体型カーナビ新製品の投入
- * 構造改革の成果とディーラーオプション製品や車載機器向けデバイスを核に損益改善



海外向けナビ
(オールインワンタイプ)



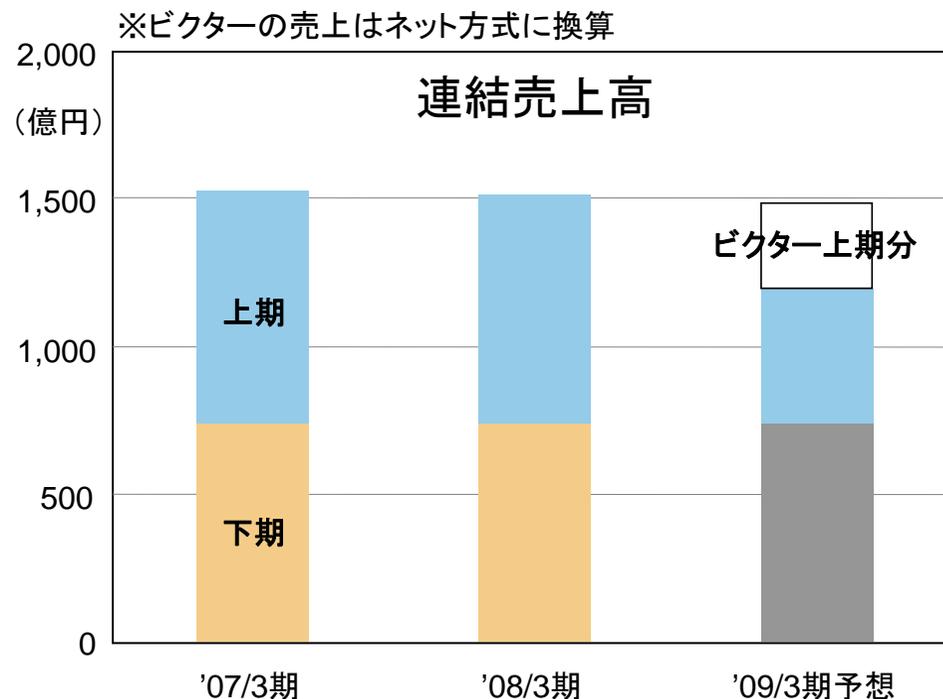
DVD/CD/USBレシーバー



高音質トレードインスピーカー

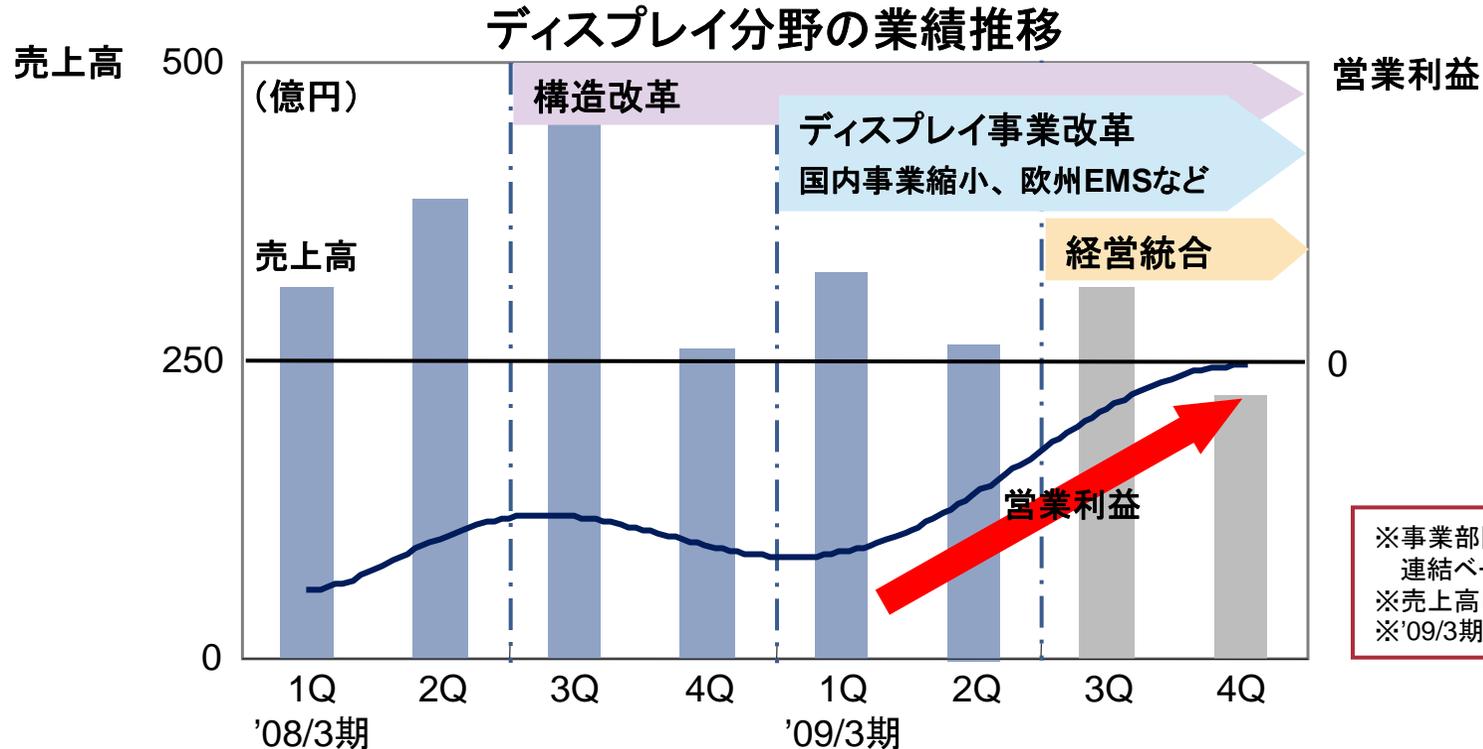


DVDメカ



ホーム&モバイルエレクトロニクス事業 – ディ스플레이分野

- * 事業構造改革の着実な実行と確実な効果刈り取り
→国内事業縮小、欧州EMS～協業の加速、海外オペレーション改革など
- * 市況悪化に対する収益確保施策の実行
→販管費・一般経費削減の徹底、新商品前倒し投入による販売活性化



ホーム&モバイルエレクトロニクス事業 – ホームオーディオ、カムコーダー分野

* ホームオーディオ分野 不採算機種への絞り込みと、協業による採算機種の拡充、コスト競争力の強化、収益力あるAVアクセサリ分野の販売促進

* カムコーダー分野 高付加価値型新製品の投入



ハードディスクカムコーダー



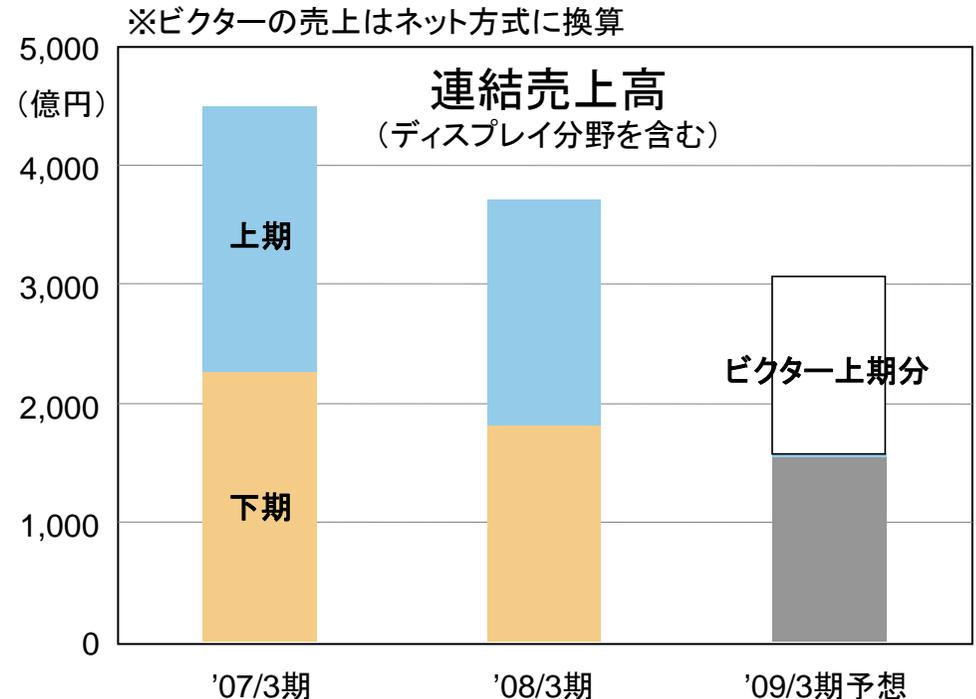
ステレオミニヘッドフォン



Blu-ray シアター

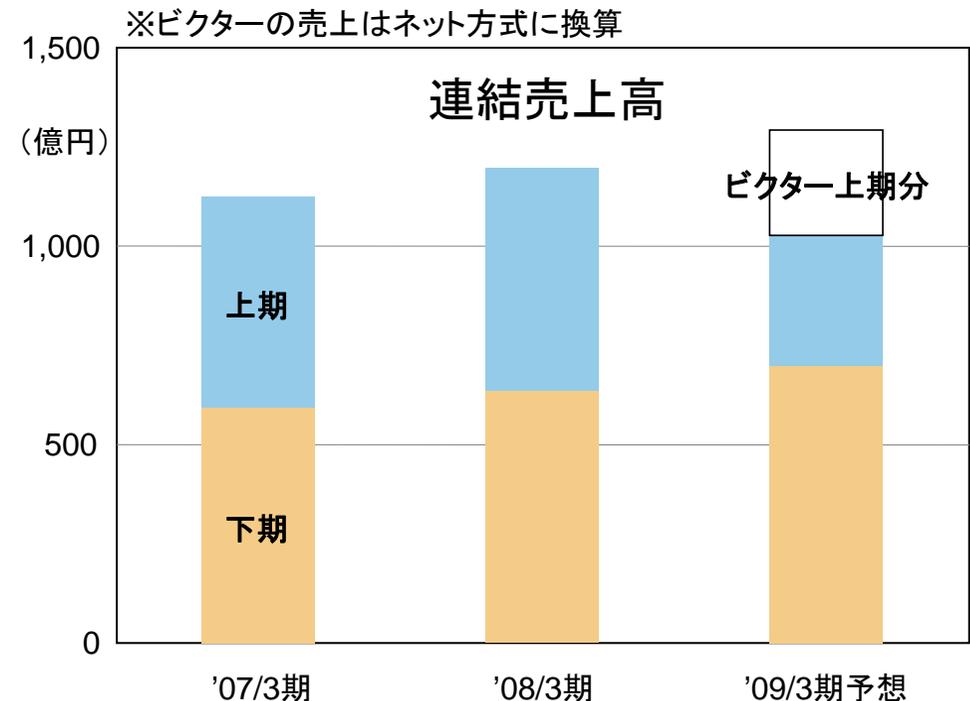


高音質ピュアオーディオ



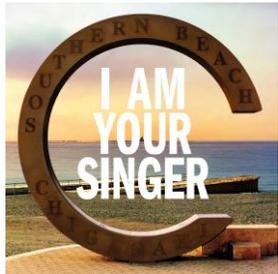
業務用システム事業

- * デジタル業務用無線機器、業務用無線システムの販売強化
- * プロシステム、業務用無線機器両分野の製品・販売網を生かした新規需要開拓



エンタテインメント事業

- * 旧譜販売施策の再構築
- * 記録メディア事業の譲渡→コンテンツ開発・育成力の強化や権利ビジネスの強化、一層の固定費削減



サザンオールスターズ
「I AM YOUR SINGER」



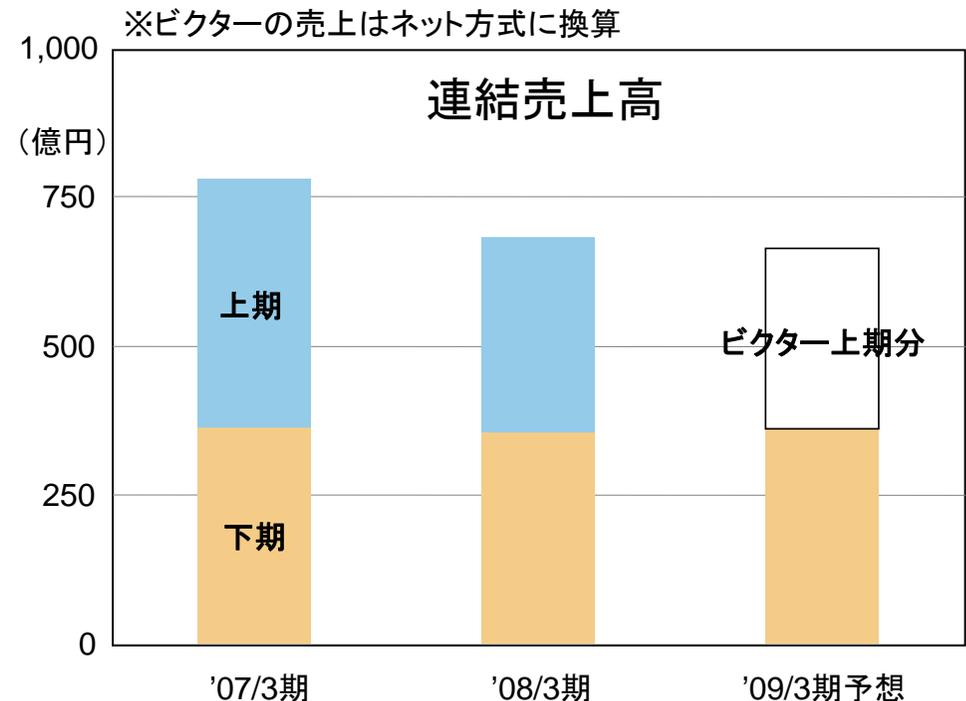
SMAP
「この瞬間、きっと夢じゃない」



BEGIN
「一五一会」



May'n / 中島愛
「ライオン」



当下期に想定される統合効果

パーチェス会計の適用

- * 退職給付債務償却額の減少、構造改革費用負担の減少による営業利益の増加
- * 「負ののれん」の発生にともなう営業外収益の増加
- * 連結納税制度の適用による納税額の減少

シナジー効果

- * 知的財産の相互活用による特許料負担減
- * 共同開発による開発負担減
- * 部材の共同調達による調達コスト減 など

収益構造改革の効果

- * 緊急対策
- * コスト構造改革 など

収益構造改革の取り組み

経営環境の悪化に対処するため、構造改革の総仕上げとして、グループ全体の収益構造改革を推進し、ビクターでは本年10月1日付で新たに収益構造改革会議を発足

(1) 経営構造改革 — 連結経営の強化

- * 生産から販売までをグローバルに束ねた連結事業体制への移行
- * 子会社も含めた連結経営の徹底
- * 「システム経営」の展開
- * 当社・事業会社間、事業会社・子会社間、子会社内にあるロスコストの削減

(2) 財務構造改革 — 財務・経理改革

- * グループワイドなキャッシュマネジメントを重視した経営への転換
- * 戦略的かつ機動的な資金調達
- * 固定資産の流動化と在庫および売上債権の圧縮による運転資金の改善
- * パーチェス法を活用した構造改革の総仕上げ

収益構造改革の取り組み

(3) コスト構造改革 – プラットフォーム改革とグランドデザイン

- * コーポレート部門・事業部門の費用構造、IT投資の見直し
- * 新しい連結経営方針に基づくグループ間取引の改革
- * 「生産革新」の展開
- * 緊急対策

(4) 事業構造改革 – 事業別収益構造改革

- * ディ스플레이分野では欧米市場向け新製品のコスト競争力強化
- * ホームオーディオ分野でも不採算機種絞り込み
- * 事業ごとの前向きな構造改革

JVC KENWOOD HOLDINGS



このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。